

2021 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	ヒューマンファクターによる環境制御法 小委員会	主 査 名：近本 智行 就任年月：2018 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)	委員長名：秋元 孝之 主 査 名：近本 智行
設 置 期 間	2018 年 4 月 ～ 2022 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	ヒューマンファクターによる効果、IT などと組み合わせた実用的な制御法など、より実践的に利用価値を高めた環境構築技術を整備していく ・初年度：事例収集、制御装置などの情報収集 ・2年度：効果検証を検討、環境構築についての設計・制御手法の素案を作成 ・3年度：事例・制御装置などの情報収集、環境構築の設計・制御ガイドを検討 ・4年度：環境構築の設計・制御ガイドを作成、シンポジウムなどで成果発表	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 主査：近本智行 (立命館大学) 幹事：長續仁志 (大林組) 委員：秋元孝之 (芝浦工業大学)、鶴飼真成 (早稲田大学)、大黒雅之 (大成建設)、大宮由紀夫 (竹中工務店)、小林弘造 (日建設計)、佐々木真人 (日本設計)、田辺新一 (早稲田大学)、中野淳太 (東海大学)、西野淳 (ダイキン工業)、野部達夫 (工学院大学)、三浦克弘 (鹿島建設)、村上宏次 (清水建設)、横山計三 (工学院大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	2020 年度より「ヒューマンファクターによる設計・制御ガイドライン作成 WG」設置	
2021 年度予算	120,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし (昨年度、刊行物出版済み)
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	なし (各年度の活動計画では今年度のシンポジウムとしていたが、シンポジウムは、刊行物出版と合わせ昨年度実施済)
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 事例収集、制御装置などの情報収集を実施し、「事例シート」としてとりまとめた。 2. テキストマイニングによりヒューマンファクターの分析を行った。 3. 最終年度として報告書のとりまとめを行った。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 感染症対策として全面的にオンライン会議による委員会活動とした。 2. これまで実施が難しかった見学、現地調査などは、新たに立ち上げる「ヒューマンファクターデザイン建築評価法 小委員会」で検討してゆく。

2021 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

<p>総合評価 (4 段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>当小委員会では、最終年度として以下の活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 小委員会の活動方針の確認、活動内容の検討 <ul style="list-style-type: none"> 小委員会としての活動方針を確認し、年度毎の委員会活動内容を検討した。 小委員会の成果として、最終年度としてヒューマンファクターによる環境構築の設計・制御ガイドを作成してゆくことを確認した。 ヒューマンファクターに関する事例収集、制御装置などの情報収集を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 委員からの提供された情報を事例シートとして取りまとめ、分析を行った。 ヒューマンファクターに関する要素の分析 <ul style="list-style-type: none"> 収集した事例、制御装置などの情報収の他、昨年度出版した刊行物を対象に、テキストマイニングを用い、ヒューマンファクターに関する分析を行った。 最終年度として報告書を取りまとめた（報告書の構成は下記の通り） <p>「ヒューマンファクターによる環境制御法小委員会報告書」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 章. ヒューマンファクター事例分析 <ol style="list-style-type: none"> 1.1 事例シート一覧 1.2 分析結果 2 章. テキストマイニングを用いたヒューマンファクターの分析 <ol style="list-style-type: none"> 2.1 テキストマイニングの概要 2.2 テキストマイニングとは 2.3 テキストマイニングの使用法 2.4 テキストマイニングの実施 2.5 『環境のヒューマンファクターデザイン』各章ごとの結果 3 章. シンポジウム概要 4 章. その他 5 章. 事例シート

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。